

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2012.2.5 No.126 連絡先 FAX 042-555-1911



横田基地へ攻撃機 戦闘機など105機 驚きのヤマサクラ61の計画



A-10 48機
 攻撃機。在韓米軍の A-10 が昨年も横田友好祭に展示。



F-16CG 36機
F-16CJ 12機
 戦闘機。F-16CJ は三沢基地に配備。



RQ-9 3機
 攻撃能力を持つ軍用無人航空機。



HC-130 2機
 HH-60 に空中給油
HH-60 4機
 戦闘捜索救援ヘリコプター。

日米共同方面隊指揮所演習「ヤマサクラ 61」が、1月 26 日から 2 月 6 日まで行われています。兵庫県の陸上自衛隊伊丹駐屯地で行われる、とされていますが、事前に流出した「ヤマサクラ 61」のシナリオは、日本全土を巻き込んで行きます。

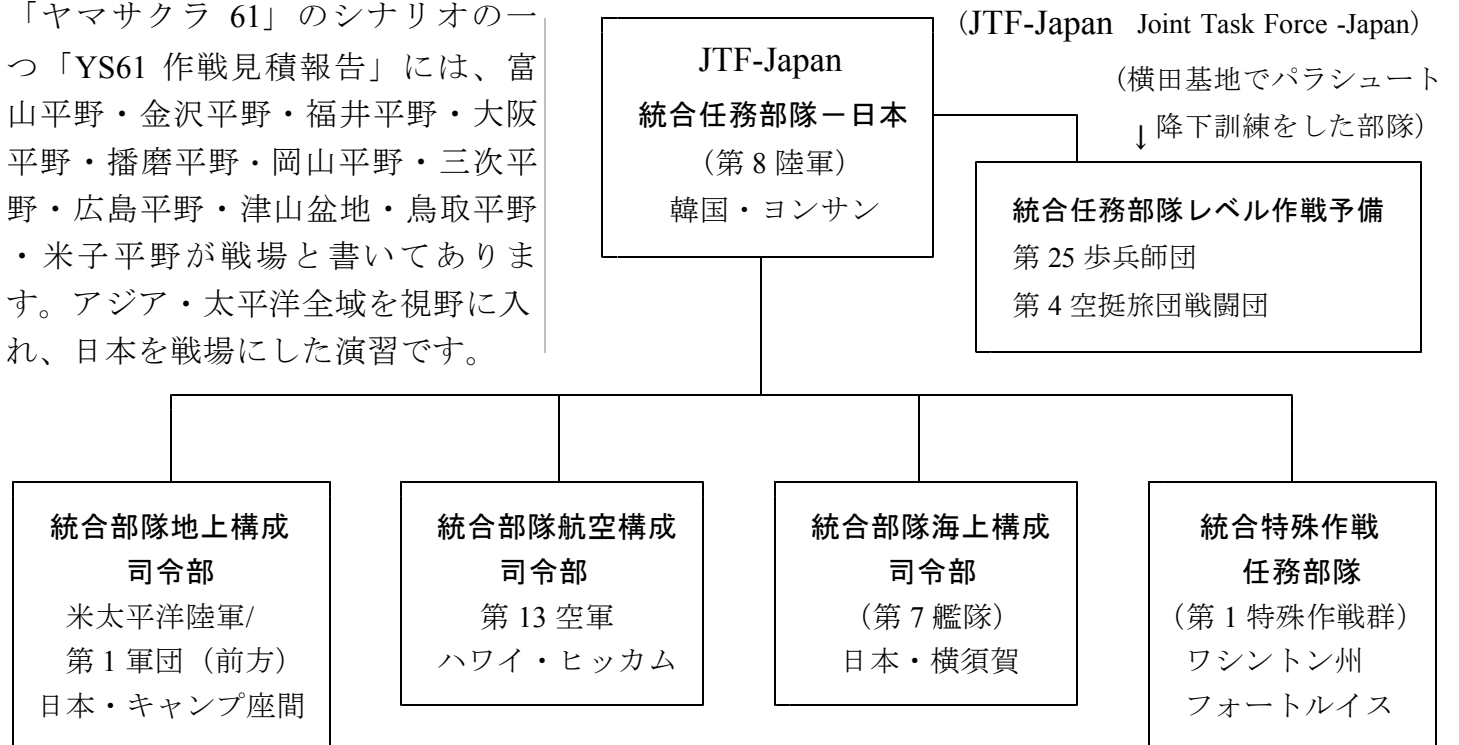
演習の統合任務部隊(JTF-Japan)は日本におかれませんが、任務を行うのは韓国・ヨンサンの第 8 陸軍です。

統合任務部隊－日本、のもとに、統合任務地上構成司令部、統合任務航空構成司令部、統合任務海上構成司令部、統合特殊作戦任務部隊をおきます(下図)。

ハワイ・ヒッカム基地に統合任務航空構成司令部がおかれませんが、横田基地には A-10 攻撃機が 48 機、F-16 戦闘機が 48 機、RQ-9 無人航空機が 3 機、HC-130 が 2 機、HH-60 ヘリコプターが 4 機、合計 105 機が前進展開します。演習のシナリオで横田基地が攻撃・戦闘発信基地に位置付けられているのです。信じられません。

アジア・太平洋を視野に入れたヤマサクラ61演習は 日本が戦場!

「ヤマサクラ 61」のシナリオの一つ「YS61 作戦見積報告」には、富山平野・金沢平野・福井平野・大阪平野・播磨平野・岡山平野・三次平野・広島平野・津山盆地・鳥取平野・米子平野が戦場と書いてあります。アジア・太平洋全域を視野に入れ、日本を戦場にした演習です。



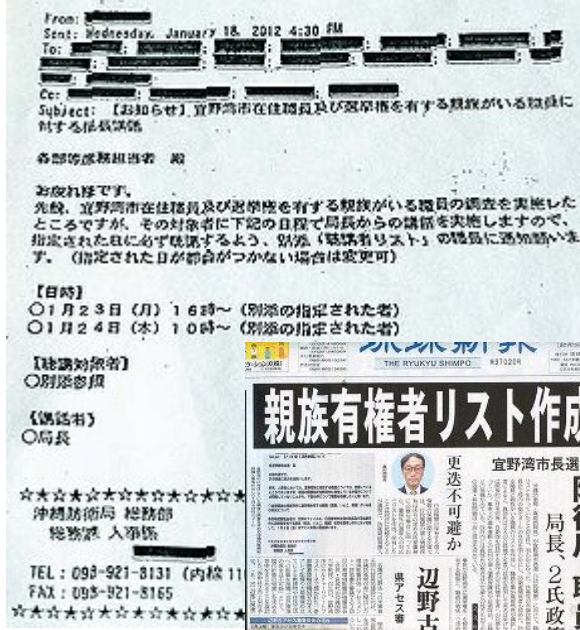
※統合任務航空構成司令部からは、三沢、嘉手納、グアムにも米空軍攻撃機、戦闘機が前進展開します。

職員・親族リスト作成 宜野湾市長選

「新基地を押し付ける国家権力による選挙への不当な介入だ」一。日本共産党の赤嶺政賢議員は 31 日の衆院予算委員会で、米軍普天間基地「移設」問題が大争点になっている沖縄県宜野湾市長選挙（2 月 12 日投票）に関し、防衛省沖縄防衛局が選挙介入していた疑惑を内部告発をもとに明らかにしました。（「赤旗」紙 2 月 1 日付）

内部告発は 2 通の電子メール。沖縄防衛局の総務部総務課人事係が局内各部の庶務担当者あてに送ったもので、4 日付文書は「宜野湾市在住の職員及び宜野湾市に選挙権を有する親族」の調査を依頼。18 日付ではその対象者に局長の「講話」（23 日午後 4 時、24 日午前 10 時）を「必ず聴講する」よう求めています。

指定された時刻は職務中です。



(内部告発のメールと、報道する「琉球新報」紙)

赤嶺氏は、「沖縄防衛局が職権を使って有権者リストをつくらせ、局長の『講話』をきくように指示・命令していた」「国家機関の選挙に対する中立・公正の義務、選挙における地位利用の禁止に反することは明らかだ」と追及しました。野田佳彦首相は「とにかく事実確認させてください」と繰り返すだけ。田中直紀防衛相は「至急確認をする。そういう事実があってはいけない」と答弁。中井洽（ひろし）予算委員長は「局長『講話』等も含めてきちんと出すように」と求めました。

宜野湾市長選介入疑惑で騒然 沖縄防衛局に報道陣続々「局長は説明を」

31 日、赤嶺衆院議員が沖縄防衛局の選挙介入疑惑を質問した実況中継（NHK）終了直後から、沖縄県嘉手納町の同防衛局に中継車も含め、30 人近い報道関係者が続々とつめかけました。

昼食で外出する防衛局職員はマイクを向けられても、無言で足早に立ち去りました。マスコミからの取材要請に「追って伝えます」と報道室職員。5 時の業務終了後も何の発表もありません。

5 時過ぎ、報道陣以外でまっさきに駆けつけたのは自民党県連副会長（県議）の翁長（おなが）政俊氏。同氏は、むっとした表情で「市長選告示が目前というときに、迷惑な話だ。県連も候補も県外移設ではっきりしている。県民に誤解を与えかねない。それで抗議と事実関係の確認を申し入れた」、「応じた真部朗局長は（赤嶺質問を）全面否定しなかった。『確認中で時間をいただきたい』というばかりだった。質問が事実なら法令にふれる重大問題だ」と吐き捨てました。

宜野湾市長選告示（5日）前に局長の処分の方針もあったが 処分は先送り

田中防衛相も「至急確認をする。そういう事実があってはいけない」と答弁し、翁長自民党沖縄県連副会長も「質問が事実なら法令にふれる重大問題だ」と語るなか、真部局長は、講話した事実を認めました。さらに沖縄防衛局の選挙介入は今回だけでなく、名護市長選・市議選、沖縄県知事選、国政選挙と過去 5 回にわたり行われていたことも明らかになりました。

3 日の衆院予算委員会の集中審議で、真部氏は開き直りとも思える「講話は業務の一環だ」と延べ、防衛省は「引き続き調査する」として、局長の処分を先送りしました。

宜野湾市長選挙は、イハ洋一・元市長と自公支援候補の一騎打ちです。

自公支援候補は、新基地は県外移設といいますが普天間基地の無条件撤去とはいいません。

無法な選挙介入はキッパリ止めさせ、普天間基地の無条件撤去と新基地建設反対を！